

こだわりで手作りギタ

自分の音をつくる

愛媛支部・廣川 憲二さん



素人とプロの違いは塗装、ペーパー掛けは特に入念に

四国建設技術センター・ネットワーク設備機械部担当の廣川憲二さん（五十五歳）は、昨秋、テレビ、ラジオ、新聞のインタビュー報道で、ギター作りのアマチュアギタリストとして一躍有名になりました。

ギター仲間から修理をたのまれ、これが成功していくうち、手作りのギターを「作ってみよう」との思いつきで、昨年十月、材料選びから始めました。初めて作ったギターは「予想以上」の音、「よーい自分の音を作ろう」と、満足に加え



日本にも材料はある

自信と意欲は「層沸沸」との注文がきています。アマチュアとはいえず、小さい頃から木工が好まれた廣川さんは県内でも屈指のクラシック・ギタリスト。ギター文化を地域に「と、全国からプロのギタリストを呼び、発表の機会を提供。ファンには演奏会を通じクラシックギターの素晴らしさを広めてきました。そして、プロの作者が外国の材料で作った「一流のギタリストによる廣川さんの「手作りギター」での演奏とトークショーが実現しました。

多くのギタリストの悩みであり、自分自身の弱みでもある「手が小さい」「爪が弱い」のを克服するため、「自分の身体に合ったギターを作りたい」とこだわります。同好会のメンバーやプロのギタリストも「弾けば弾くほど弾きたくなるギター」だと、絶賛。

今、フラメンコギター

の注文がきています。小さい頃から木工が好まれた廣川さんは、二〇代に一度、ギター作りに挑戦して失敗したことがあり、ギター弾きは指が大切で、工具で指を痛めるのが恐かったことが失敗の原因でした。

プロの作者が外国の材料で作った「一流のギタリスト」は数万円、一般の人には手が届きません。日本の材料で既成の楽器にない音を追求める廣川さんは、「一つ一つの音がはっきりしている」「弾く人に合わせたギター」を作ること、自信を深めています。

いつも側にいる美恵夫人は、「ケンちゃんを作ったギターの最初の音を聞くのが私だから、それが一番嬉しい」と語ってくれました。(N)